

東北大学大学院 水藤 寛 先生

AI やコンピュータの診断だからと言ってそのまま信じるのではなく、人間の医師の判断を大切にしたい、という声が多く、心強く思いました。また、このような考察を「自分の将来を知ることが本当に幸せなのか」という人間の根源に関わる疑問に発展させた方もいて、頼もしく思います。方程式にせよ、AI にせよ、そもそも人間は、「知らないモノ」に恐怖や不信感を抱きます。今いろいろなことを学びつつある皆さんは、これから否が応でも我々の生活空間に浸透していく AI に対して、相手を知り、その特徴を理解して使いこなすことが必要でしょう。「使いこなす」ためには「限界を知っておく」ことが欠かせません。そのために必要になるのが、数学をはじめとする学問たちです。皆さんが 10 年後に、いろいろな立場から新しい社会の形を築く一員となっていることを祈っています。

岡山大学大学院 亀川 哲志 先生

皆さんのレポートを拝見しました。私はロボットの研究者なので、ロボット工学という観点で、自分の経験を踏まえて皆さんに医療ロボットの一例を紹介させていただきました。基本的には皆さんは医療に興味があるようですので「へび型ロボットって何？」という戸惑いがあったかと思います。私が皆さんに伝えたかったのは、単に、世の中にある医療機器や医療ロボットを知っているというだけではなくて、へび型ロボットと対比させることで、そういうものを作っている人たちは何を考えて作っているのかということに思いを巡らせてほしいということでした。医療機器に求められる完成度の高さや、それをクリアしたものが世の中にでているんだというところに気づいてもらえたのではないかと思います。だからといって、へび型ロボットをはじめ、そのほかの工業製品の完成度は低くてもいいということではありませんので、その点ご注意ください。

広島市立大学大学院 齋藤 徹 先生

解答の内容、分量は理解度や興味に応じて様々でした。物理の力学や化学が苦手な受講生には、講演も含めやや分かりにくい内容であったのかもしれませんが、MM-MD は電子の動きを考慮しないときに、QM/MM-MD は電子の動きを考慮すべきときに、それぞれ使い分けるという解答が何件かありました。とても簡潔で分かりやすくまとめられていると思います。子供にも安心して使用できる副作用の少ない医薬品の開発に適用できるのではないかと、といった医療分野への高い関心がうかがえるような解答もありました。量子力学と古典力学の特徴について調べる中で、パソコン、スマートフォン、インターネット、量子暗号の開発と量子力学との関わりを調べた解答も何件かありました。今回の生体分子シミュレーションの内容とは直接関係ないのですが、量子力学が私たちの日常生活を支えていることを受講生の皆さんに知ってもらうための良い例と考え、ここで紹介したいと思います。